



ポスターセッションで探究内容を説明



プロジェクトを発表する2年5班の皆さん



発表内容について質問する生徒

2月22日、1、2年生98人が「総合的な探究の時間」の成果報告会をくずまのまき×まきホールで行いました。令和4年度の探究は学年ごとに11班に分かれて活動。生徒たちは探究の内容や取り組みをまとめたポスターを発表しました。2年生は町の自然や歴史、食に関する探究など地域に密着したテーマで、昨年から探究を掘り下げていました。また、1年生は制服改革やごみのポイ捨て問題など身近なテーマを探究するなど多様な内容となりました。

その後、投票で「応援したいプロジェクト」に決まった各学年の上位3班が、ステージ発表を行いました。2年生トッ

プの得票数だった5班は「葛巻の資源で文房具をつくる」というテーマで、くずまきワインから提供を受けた山ぶどうの搾りかすでインクを作る取り組みを紹介。完成したインクに手ごたえを感じ「他にはない魅力的な商品にしていきたい」と今後の展開に意欲を見せていました。

コメンテーターの山崎智樹さん(SORa Stars 株代表取締役)は「学びを楽しめるものに変え、周りの人をどんどん巻き込みプロジェクトを実現させてほしい」と話していました。

生徒たちの探究活動は、身近な地域を舞台に今後も続きます。町民の皆さんの応援をお願いします。

地域に密着した探究の成果を報告



1

令和4年度第53回卒業式

コロナ禍を乗り越え それぞれの道へ



2



4

3



5

6

①堂々と整列する卒業生②卒業証書の授与③式辞を述べる菅校長④卒業生を祝福する鈴木町長⑤送る言葉を述べる侑芽さん⑥答辞で感謝を述べる卒業生代表の和真さん

3月1日、令和4年度第53回葛巻高校卒業式が挙行され、学び舎を巣立つ45人に菅常久校長から卒業証書が授与されました。

本年度の卒業生は、新型コロナウイルス感染症拡大と同時に高校生活がスタートし、学習や部活動などさまざまな場面で多くの制約を受けてきました。菅校長は式辞で「コロナ禍に翻弄され続けた3年間でしたが、皆さんは未来を見据え努力を続けました。その努力と仲間との絆は今後の大きな原動力となるでしょう。誇りを胸に力強く前に進んでください」と卒業生を讃えました。

また、鈴木重男町長は「皆さんの夢がかなう人生であること、そしてやがて町に帰って来て活躍されることを願います。ふるさと葛巻を心の片隅にずっと持ち続けてください」とはなむけの言葉を贈りました。

送辞では吉田侑芽さん(2年)が「嬉しさや悔しさを分かち合う先輩たちの姿に強い絆を感じました。皆さんの努力を惜しまない姿に学び、来年度からは私たちが輝かしい足跡を残せるよう精進します」と述べました。また卒業生を代表して佐藤和真さんが「3年間を支えてくれた先生方と家族に心から感謝し、かけがえない友人と出会い卒業できることを誇りに思います。在校生の皆さん、成功も失敗もこれからの自分の成長につなげてください」と晴れやかな表情で答辞を述べました。

卒業生は温かい拍手と共に在校生や保護者に見送られ、それぞれの道に新たな一歩を踏み出しました。

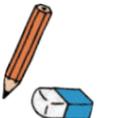
先月の卒業式では、春からそれぞれの道に進む先輩方の新たな門出を祝い、改めて葛巻高校の次のリーダーとしての責任を自覚しました。高校時代の2年間を共に過ごしてきた先輩方とても尊敬しています。各イベントや進路実績など、さまざまな方面で活躍された先輩たちを越えられるように頑張ります!

さて、今月は入学式があり、新しい環境での生活が始まる中で、多くの出会いがあります。新しい仲間や先生、好きなコトやモノなど…。至る所にまだ知らないことがあり、変化があり、人生を豊かにするチャンスが潜んでいます。

私の最近の新たな出会い



お気に入りの本を手にする聖弥さん



高校生記者レポート



六角聖弥(3年) 季節とともに心機一転、いろいろなことにチャレンジしましょう!

いは「E=mc²のからくり」という本です。物理の法則を簡単に紹介してくれる面白い本で、読むだけで物理の問題を解きたくなります。いっどこに自分の興味が潜んでいるか分からないので常時アンテナを立てておくことも大切ですね。

季節の変わり目なので引き続き体調管理を怠らず、1年間の良いスタートを切れるように頑張ります!



3年間の留学生生活を終えた第6回生の皆さん(1人欠席)

13人が留学生生活に終止符

2月27日、くずまき山村留学修了式がグリーンテージで行われ、第6回生13人に鹿崎良宏教育長から修了証書が授与されました。式に先立ち、生徒たちは鈴木重男町長を表敬訪問し「貴重な経験をありがとうございました」と町の支援に感謝を述べました。

修了式では1、2年生が3年生に花束と寄せ書きを贈り、3年生からは、記念品として寄宿舎に時計が贈られました。山口莉凜さんは「頼りなかったかもしれないが慕ってくれた先輩の皆さんに感謝します。職員の皆さん、3年間本当にお世話になりました」とあいさつしました。